

# TS（トータル・サティスファクション）を目指して④「幸福感ある職場」

「樂をしてもらうつもりはありません」

校長室担当より

相互信頼機能を果たせる組織で、協働して仕事をすると楽しくなります。逆に、「私は正しい。悪いのは向こうだ。正すべきは相手だ。」と言って、何も手助けしないことで、仕事をする上で最も必要な貢献感や幸福感を得られることはありません。本来、人間というものは、「仕事」という名の「困っている人が喜ぶ方向へ進むように動く行動」を主体的に実践することで、自身が喜びを感じ、貢献感をもち、幸福感を得るようになってきているのですから。だからこそ、「トータル・サティスファクション」が私たちには必要なのです。

アメリカの心理学者ソニア・リュボミアスキー氏、ローラ・キング氏、エド・ディーナー氏らの研究によると、幸福度の高い職場は、そうでない職場と比較して、生産性は31%、創造性は3倍高いというエビデンスがあります。 樂で、収入が多くて、安定している仕事の職場が幸福度の高いものであるとは限りません。そういう視点ではなく、関係性が良くて、やりがいや働きがいを見出せる職場こそが幸福感のある職場と言えます。私たちが児童生徒、同僚、保護者、学校へ出入りされる方々や家族を含め、目の前にいる人を笑顔や幸せにすることが、組織の生産性を高め、これが社会の役に立ち、感謝される存在となり、必要とされる存在となることへつながります。そしてこのことが再び私たちの幸福感を上げていくこととなります。こう考えると、本当の意味での「働き方改革」とは、時短ばかりではなく、「幸福度の高い職場づくり」ということとなります。ぜひ実現しましょう。但し、繰り返しになりますが、「樂をする」とことと「幸福になること」は異なります。先生方には、「樂」をしていただくのではなく、「本気」になっていただくことをお願いしています。

以前、朝礼でお話ししましたが、亡くなった田中邦衛さんのことを、俳優の中島朋子さんがこう評していました。「会う人をみんな幸せにしまう人」だと。ご自身もきっと幸福な人生を歩まれたことと思いました。私も死を迎える時には、こうありたいと心から思います。一人一人がこれを意識して、人生を豊かにしていきましょう。そして、いい学校をつくりましょう、一緒に。(令和3年6月15日)

本校教職員として目指す方向性（確認） ※4月1日にお願ひしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の3悪の撲滅